

2023年5月1日

疫学研究とは、病気にかかることの頻度や病気の多さを調べて、その原因を明らかにする研究です。私たちは過去のカルテより得られた情報を利用して、現在まで行われた病気の診断・治療の評価を行い、より良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、下記の疫学研究を行っています。

下記の疫学研究は、兵庫県立尼崎総合医療センター倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんに新たにご負担をおかけすることはありません。

また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし、下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記連絡先にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また下記研究に関して、ご不明な点がございましたら、いつでも下記連絡先にお問い合わせください。

#### <概要>

研究課題名	「小児期の潜在性微量栄養素不足の早期診断のためのスクリーニング問診シートと多職種連携ガイドラインの開発」
対象	2015年7月から2023年4月までに兵庫県立尼崎総合医療センター小児科で、栄養指導をお受けになられた患者さんを対象とします。
研究期間	承認日から2025年3月31日までを予定しています。
研究目的	近年、ビタミン不足による角膜潰瘍、壊血病、くる病等の栄養障害のお子様は増加傾向にあります。その背景には食品流通の変化に加え、子育て世代の栄養摂取量の減少、子供の咀嚼機能の低下等が複合的に関与していると考えます。ビタミンのみならず銅、亜鉛、鉄、カルニチン等の微量栄養素は、エネルギー代謝、DNA合成、免疫能等の多彩な生体反応の維持に重要で、身体のみならず心の健康にも関与します。そのため、私たちは潜在的な微量栄養素不足の早期発見と、患者背景を踏まえた栄養指導は小児科診療で重要な課題と認識しています。しかし、本邦では肥満症に比して微量栄養素不足の危機意識が低い傾向にあり、その早期発見のあり方は十分に議論されていません。そこで、当院では新規開院以来の栄養指導データをふり返り、指導の妥当性を検証するとともに栄養不足ないし微量栄養素不足のお子様の早期診断のためにスクリーニング問診シートの策定とハイリスク患者に対する多職種連携での支援ガイドラインの開発を目指したいと考え、本研究を企画することになりました
方法	診療記録より臨床情報を収集します。収集する臨床情報には、基礎疾患、年齢、性別、発達、不安スケール、睡眠状態、日常生活でのお困り事等の生物心理社会的なプロフィールがあります。研究結果は学会および論文にて公表させて頂くことも計画しています。
個人情報	臨床情報は匿名化され、個人が特定できないようにして、必要な臨床データのみを収集して解析を行います。そのため、本研究に協力していただく患者さんに不利益が生じることはないと考えています。しかし、そうであっても臨床情報を本研究のために使用されたくない方は、ご連絡いただければ解析対象から除外します。
問い合わせ先	兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科 〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町 2-17-77 TEL：06-6480-7000 FAX：06-6480-7001 研究責任者：小児科部長 小林健一郎